

『多職種共動』の歩み@福島2016

過去に 学び
現在を知り
未来を語る

13:30~14:30

第1部 「実践報告」

報告者①: 小野田修一 氏(南相馬市立総合病院 理学療法士)

報告者②: 池崎悟 氏(浪江町社会福祉協議会 副主査)

14:40~16:50

第2部 「パネルディスカッション」

(※報告予定順)

菅野直樹 氏(精神保健福祉士会)

井上航 氏(弁護士:元・浪江町役場)

安田晴絵 氏(医療ソーシャルワーカー協会)

近澤大 氏(作業療法士会)

大泉真哉 氏(社会福祉士会)

* 座長: 森美樹 氏(伊達介護支援専門員協会)

日時: **3月12日** (土) 13:30~17:00

※受付13:00~

場所: 福島県青少年会館 2階大研修室 (住所: 福島市黒岩字田部屋53番5号)

会費: **無料** (非会員は500円)

〆切(必着)
2/26(金)

申込: 各団体にて受付 (別紙にてお申し込みください)

※非会員は、精神保健福祉士会へFAXでお申し込みください (FAX024-553-3816)

問い合わせ: 福島県精神保健福祉士会 事務局 菅野正彦 (代024-553-1569)

主催: 介護支援専門員協会(福島・伊達・安達)・社会福祉士会(県北)・医療ソーシャルワーカー協会(県北)
・理学療法士会(県北)・作業療法士会(県北)・精神保健福祉士会(県北・相双)

あの震災から間もなく5年を迎えようとしています。

東日本大震災は、地震・津波・原発事故・それに伴う広域避難に放射能不安、風評被害に『フクシマ』というスティグマなど幾重もの苦難を付きました。時間の経過と共に「復興」という言葉は当たり前のように使われていますが、現地の苦難は変わらず、深刻さを増しています。

一方で、ここ福島では、複数の職能団体による新たな災害支援活動が芽吹きました。被災県の被災職能団体による中・長期的支援としての活動です。本務を抱えながらの活動には大きな困難を抱えています。平成23年5月の発足から各地域事情に合わせ、専門性を活かした活動が現在なお継続しています。これは、当地域も例外ではなく、共に考え、共に動き、共に足跡を残してきました。

この事実を踏まえ...「これまでの歩みを改めてなぞってみよう」
「現地・他方部・他機関の現在を知ろう」
...そして、参加者みんなで「未来を語ろう」

そんな想いを共にした県北方部の6団体で、この度、本合同研修を企画することになりました。

人の想いが力になる。人との出会いが未来を拓く... 現在ここに集いましょう。
皆様のご参加を心からお待ちしております。

合同研修運営委員会一同

演題:「被災地を支える専門職として」

講師: **小野田 修一 氏** (南相馬市立総合病院 技師長補佐、理学療法士、介護支援専門員)

富岡町出身。

支援者で被災者。被災者で支援者でもある小野田さん。

震災当時は、約300名の医療ボランティアや医療支援者のマネジメントに奔走。現在も勤務している南相馬市立総合病院は原発から23kmの距離にあり、当時は閉鎖せず地域医療を支え続けた中核病院の一つとして注目を集めました。しかし、原発事故に伴う避難等からリハビリ職が12名から3名まで激減するなど様々な場面で極限状態に直面。理学療法士として勤務する一方で、現地に残った仲間と共に相双地区の地域支援活動にも積極的に取り組み、同地における急性期リハビリテーション医療の再構築に力を尽くしています。

当日は、震災時の苦悩、5年後の現状、そして未来への想いなどについてお話いただく予定です。

演題:「避難者が避難者を支える覚悟と葛藤」

講師: **池崎 悟 氏** (浪江町社会福祉協議会 副主査)

浪江町出身。

同地で池崎自動車整備工場を経営しているときに被災。

原発事故に伴い一家で避難。避難先で浪江町役場臨時職員を経て同社会福祉協議会・生活支援相談として着任。その後、統括支援相談員を経て、現職。現在は就労支援やボランティアセンターの立ち上げ、帰町に向けた町内地域コミュニティ作り等に従事しています。家族含め、自身も避難者。浪江町に 戻りたい住民を、より住みやすく安心して帰ってもらう環境を作る助けになりたいと思う一方、自分の家族は避難先で5年の月日を費やし、特に子どもは『避難先が地元』となり、同地に強い思い入れを持つようになっており、自分自身の生活・家庭を考えると覚悟も決まらず、葛藤の日々を過ごし現在に至ります。

当日は、自身の揺れる想いを踏まえ、刻々と変化する避難者や地域事情、そして、第一線で関わる立場から生の声を皆様にお届けいただく予定です。

